

### 題材の目標

- (1) 空き箱を並べたり積んだりすることで、変化する形や大きさなどの面白さに気付き、手や体全体の感覚を働かせて、つくり、つくりかえながら工夫して表すことができるようにする。(知識及び技能)
- (2) 空き箱を高く積む、長く並べるなどの楽しい活動を思い付いたり、見えてきた形などから、面白い形などを考えたりするとともに、自分たちの作品の造形的な楽しさや面白さなどを感じ取り、自分の見方や感じ方を広げることができるようにする。(思考力、判断力、表現力等)
- (3) 空き箱を並べたり積んだりする活動を楽しみ、つくりだす喜びを味わうとともに、形などに主体的に関わろうとする態度を養う。(学びに向かう力、人間性等)

### 指導のポイント

#### ○教科等横断的な視点で学習への関心を高める

材料は算数の「かたち」の学習で使用した空き箱を利用し、児童と共に休み時間や算数の学習の時間に形や大きさで大まかに分けておく。他教科等との関連を図ることで、児童の学習への関心・意欲をより高めることにつなげる。

#### ○児童が造形的な活動を見付けることができるようになるための知識及び技能の提示(※1)

児童が自ら造形的な活動を見付けることができるように、導入時に教員が示す知識及び技能の提示は、必要最低限にとどめ、必要に応じて、学習過程の中で新たな知識及び技能として示す。

#### ○児童の発想を広げるための板書(※2)

児童の発言や活動から見付けた発想を、カテゴリー別に整理して板書し、児童が振り返ることで、発想が広がるようにする。

#### ○児童が造形的な活動を見付けることができるようになるための試行錯誤の場と時間の保障(※3)

児童の主体的な活動を通して、「できそうなこと」、「してみたいこと」を見付けることができるように、「並べたり、積んだり」、「並べ直したり、積み直したり」するといったつくり、つくりかえ、つくるための場と時間を十分に確保する。

#### ○児童の発言や活動を造形的な視点から価値付けをする(※4)



活動の過程では、児童の発言や活動を共感的に受け止め、児童が並べたり積んだりしながら思い付いてつくっていることに、大きさや高さ、長さなどの「形の特徴」や「イメージ」などの造形的な価値を見出し、言葉にして褒める。また、思い付いたことを実現するには、どんな並べ方や積み方をするとよいかなど問いかけ、造形的な発想の連続的な発展を促す。

#### ○どのように活動するかについて児童に考えさせる(※5)

あらかじめ活動グループや人数などは決めずに、児童が材料と関わる中から生まれた気付きやイメージを基に、必要に応じて自然に活動を交流できるようにする。



## 展開例（全2時間）

<p>本時の目標</p>	<p>空き箱を高く積む、長く並べるなどの楽しい活動を思い付いたり、見えてきた形などから、面白い形などを考えたりする</p>	
<p>導入</p>	<p>児童の学習活動</p>	<p>指導上の留意点</p>
	<p>○活動のめあてを確認した後、思い付くままに「できそうなこと」「してみたいこと」をやってみる。</p>	<p>・教員が、児童の目の前で空き箱を並べたり、積んだりして見せる。その際、児童が表したいことを見付けることができるように、「並べたり、積んだり」する行為のみを示し、具体的な形は示さないように留意する。（※1）</p>
<p>展開</p>	<p>いろいろな かたちやおおきさのはこを ならべたりつんだりしながら、おもいついたことをしよう。</p>	
	<p>○並べたり、積んだりしながら、思い付いた活動をする。</p> <p>「どんな形に並べることができるだろう」「いろいろな大きさの箱があるから、置き方を変えて並べると、凸凹になったりする」「どこまで高く積めるかな」「〇〇の形になるように積んだり並べたりしてみよう」「自分の周りに並べると、中に入った感じになりそうだ」「思うようにできなかったから、初めから作り直そう」「友達と一緒にするともっと大きな活動ができそうだ」</p>  <p>○活動過程で生まれた発想を基に、1人で活動を続けたり、友達と活動を合わせたりして、1人あるいはグループで新たな発想で作り、作りかえる。（※5）</p>	<p>・児童の発言や活動を共感的に受け止め、児童の見付けた発想を、大きさや高さ、長さなどを基にした活動と、具体的なイメージを基にした活動に整理して板書し、発想が広がるようにする。（※2）</p>  <p>・並べたり積んだりしながら思い付いてつくる児童の様子を見守り、つくり、つくりかえ、つくる試みを「深い学び」に向かう学習と捉え、具体的な言葉で認めていく。（※3）</p> <p>・児童が新たに見付けた発想や行為を板書に追記する。</p> <p>・活動や形を思い付きにくい児童には、教師と一緒に並べたり積んだりしながら、どんなことができそうか相談に乗ったり、友達の活動やそれを記録した板書を見たりすることで、できそうなことを見分かるようにする。</p> <p>・児童の活動活動を受け止め、造形的な視点から具体的な言葉にして価値付けする。（※4）</p> <p>「とても高くなってきたね。どこまで積めるか楽しみだ。」  「面白い形になってきたね。どんな箱を使えばよいか、いろいろ試してみよう。」「箱の形や大きさの違いを思いに合わせようまく使っているね。」</p>

展開

「背の高さを超えるぐらいに積んでみよう。大きな箱を下に、上に行くほど小さくなるように箱を選んで積もう」「形や大きさの違う箱を合わせて並べると、凸凹ができて面白い列になる。色々な箱を集めて、より面白い列になるように並べ替えてみよう」「どんどん並べていくと、教室の端と端がつながった」「自分たちを囲むように並べてみた。人が入ることができる。今度は高くして壁のようにしてみる」「〇〇の形に見えるように、必要な箱を集めよう」

- 活動に自信がもてずに戸惑っている児童には、何を意図して活動しているのか聞いたり、見て取れる活動のよさを言葉にして伝えたりする。
- したいことや、つくりたい形がはっきりしているのに、思うようにできないで困っている様子の児童には、思いを聞き取り、以下の方法を選択したり、組み合わせたりして支援を行う。
  - ①困っている理由について相談に乗り、解決方法について話し合ったり、助言したりする。
  - ②似た操作や形づくりをしている友達を参考にしようとする。
  - ③必要に応じて一部を手伝い、後を自分（たち）でするように励ます。

まとめ

〇活動に一定の区切り付けることができた個人やグループは、友達の活動やつくっているものを見て、その楽しさや面白さを感じ取る。

「この箱の列は、教室から出ていってるよ」「自分の背よりも高く積んだ人がある。倒れないように大きさを選んで積んでいる」「大きな輪の形。自分も中に入っている」「色々な形や大きさの箱が集まっていて、〇〇みたいに見える」

- 可能な限り、互いに見合う時間を十分に取る。
- 児童により進度に差がある場合は、活動を続けたい児童は続けることができるようにする。鑑賞した児童は感じたことや考えたことを教員に話して伝えたり、紙に書いて友達に伝えたりするよう促す。
- 友達の活動やつくったものの楽しさやよさに気づきにくい児童には、初めの頃の活動と今の活動がどう変わったかを振り返らせるなどする。

